

大画面をはじめよう!

ホームシアターづくりの豆知識

6 スピーカー、AV アンプを決めます。

まずは、どのようなサウンド環境にするかを決めましょう。サウンド環境は、左右1本ずつの2chを基本として、映画館のような臨場感を楽みたい方には、5.1ch以上がお勧めです。

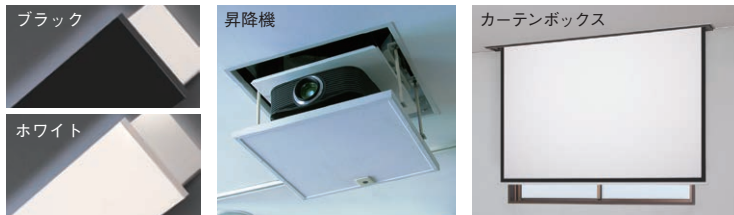
AVアンプも、出力できるチャンネル数がそれぞれ決まっています。ご希望のシステム環境に合ったスピーカー、AVアンプを選びましょう。



写真提供：オンキヨー & パイオニア株式会社

7 空間デザインを決めます。

専用ルームではできるだけ良質な映像を見るために、室内は光を吸収する色や素材で統一するのが一般的です。また、リビングシアターでは、お部屋にあわせてスクリーンケースやプロジェクター、スピーカーなどといった製品のカラーを合わせたり、プロジェクター昇降機を使ってプロジェクター本体を隠したり、カーテンボックスを作ってスクリーン本体を目立たないように工夫したりして日常生活との調和を図ります。

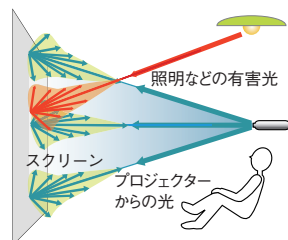


8 スクリーン素材を決めます。

スクリーンには大きく分けて次の4つの光学特性があります。

広階調型(HDR)

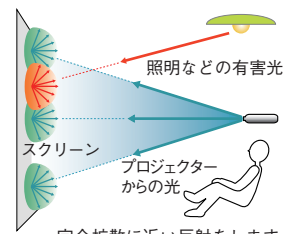
HDR(ハイ・ダイナミック・レンジ)対応プロジェクターの登場により、要望が高まった高ゲインスクリーンとして開発されたレイドールスクリーン。投写される光を生かすゲインの高さと共に、黒の諧調もしっかり表現可能な広階調スクリーンです。表面素材に特殊加工を施し、高ゲインと広視野角を実現させています。



HDR対応プロジェクター専用スクリーン。

拡散型(ホワイトマット / ピュアマット)

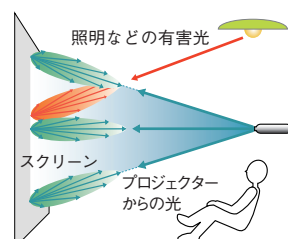
スクリーンに当たった光を全方向に均等に反射し、部屋のどの位置からでも同質の映像を見る事ができます。しかし有害光も同様に拡散するため、完全暗室にする等の対策が必要です。階調表現がナチュラルなので映像表現が主体のコンテンツなどにお勧めします。



完全拡散に近い反射をします。

回歸型(ビーズ)

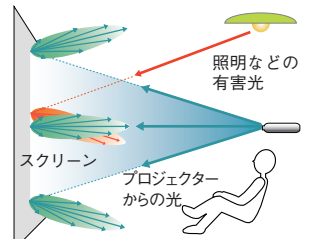
回歸型スクリーンは当たった光を来た方向に跳ね返す性質を持ちます。そのため、プロジェクターの近くで視聴する小・中規模の部屋などには、その特長を發揮します。また有害光に対し、異なる方向にプロジェクターの光源を置く事によって、有害光の影響を少なくすることが可能になります。



入射と同一方向に反射します。

反射型(パール・シルバー)

表面に均等に特殊パール顔料をグラビア印刷し、高輝度を維持しながら広視野角を確保したスクリーン。光を入射角に対し同角度に反射させる反射型です。視聴位置に対称となる位置にプロジェクターを置く必要があります。真価を發揮させるには、より暗い視聴環境を設定する事が望めます。



入射方向に対し正反対に反射します。